

報道関係者各位

家村ゼミ展 2022「中村竜治 展示室を展示」

2022年9月

家村ゼミ展 2022

※入れ替え中もご覧いただけます。

帯 (形の観察)	9/28(水) 10:00 から 10/8(土) 12:00 まで
↓	10/8(土) 12:00 から 14:00 まで
結界 (風景の観察)	10/8(土) 14:00 から 10/15(土) 12:00 まで
↓	10/15(土) 12:00 から 13:30 まで
対角線 (大きさの観察)	10/15(土) 13:30 から 10/19(水) 17:00 まで

2022年9月28日
水
|
10月19日
水

中村竜治
展示室を展示

休館日：10/2(日)、9(日)、16(日)
開場時間：10:00～17:00

@多摩美術大学 アートテークギャラリー

会場：多摩美術大学 八王子キャンパス アートテークギャラリー 101、102、103、104、105 (〒192-0394 東京都八王子市鎌水2-1723)
主催：多摩美術大学芸術学科 展覧会設計ゼミ 担当教授：家村珠代 非常勤講師：大石雅之
ゼミ生：奥谷笑子 川嶋守一 KIM Minji 斎藤桜香 竹林香代理 野口六花 TA (Teaching Assistant)：石田彩

トークセッション

10/15(土)

14:30～16:30

場所：アートテークギャラリー会場

出品作家：中村竜治

ゲスト：中尾拓哉 (美術評論家)、青木淳 (建築家)

※今後の感染状況に応じて開催期間、開場時間変更の可能性あります。
※必ずホームページをご確認の上、ご来場ください。

www.iemuraseminar.com



- 【展覧会名】 家村ゼミ展 2022「中村竜治 展示室を展示」
- 【会期】 2022年9月28日(水)～10月19日(水)
10月2日(日)、10月9日(日)、10月16日(日)は休館日になります。
- 【開場時間】 10:00～17:00
- 【会場】 多摩美術大学 八王子キャンパス
アートテークギャラリー 101,102,103,104,105
〒192-0934 東京都八王子市鎌水 2-1723
- 【観覧料】 無料
- 【アクセス】 橋本駅より：北口6番乗り場より神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」約8分
八王子駅より：南口5番乗り場より京王バス「急行多摩美術大学行」約20分
- 【トークイベント】 日時：2022年10月15日(土) 14:30～16:30
場所：本展会場内
登壇者：中村竜治(建築家)、青木 淳(建築家)、中尾拓哉(批評家)

1.「家村ゼミ展」とは

多摩美術大学美術学部芸術学科・家村ゼミは、制作を通して、作家・学生・教員、またその周辺との間で生起する試行錯誤全体を「家村ゼミ展」と呼んで来ました。「展」という言葉は入っているものの、それはできあがった展覧会そのものを指すのではなく、そこに向かって進む過程全体・運動体のことを指しています。つまり、「家村ゼミ展」とは、展覧会のあらかじめ完成形を決め、その実現を目指す従来型の「展覧会」ではなく、一種のアート・プロジェクトなのです。

2017年度以来、アート・プロジェクト「家村ゼミ展」は毎年1本ずつ、作家、そして学部3年と4年の学生たちと行われてきました。これまでに行われたのは、「高柳恵里×高山陽介×千葉正也」展、泉太郎の個展、「日高理恵子 村瀬恭子 吉澤美香—ドローイングから。」展、「金氏徹平のグッドベンチレーション —360°を超えて—」展、「今年は、村田朋泰。—ほし 星 ホシ—」の5本です。

会場は、2015年に八王子キャンパス内に設けられたアートテーク・ギャラリー1階(約520平米、一部天井高9m)、一昨年度からは、建築家大石雅之が非常勤講師として加わり、建築的な試行も加わっています。

2.「中村竜治 展示室を展示」について

中村竜治は、1972年生まれ。住宅、店舗、公共空間などの建築設計を行うと同時に、家具、展示空間、インスタレーション、舞台美術なども手がけています。数々の賞を受賞しており、なかでも椅子作品〈へちま〉は、ヒューストン美術館他の収蔵作品となっています。

2010年に東京国立近代美術館で開催された「建築はどこにあるの？ 7つのインスタレーション」では、およそ100㎡のすかすかのボリュームを、細い紙の部材を接着剤によってトラス状にひたすらつなぎ合わせることで作りだしました。建築家とアーティストの境界を越えるような作品であり、大きな話題となりました。

去年は、建築家として初めて資生堂ギャラリー第8次椿会のメンバーに選ばれ、他の5組のアーティストとともに「この新しい世界」展に参加しました。出品したのは、低めの間仕切り壁もしくは大きめの展示台といえるような白く細長い直方体でした。そして、この設えが結果的に、展覧会全体の空間を統御することになりました。

本展の特徴

1. ゼミと中村竜治さんとのやりとり

<ゼミから中村竜治さんへのリクエスト>

今回、中村竜治さんには、展示する作品をつくるのではなく、展示室そのものを展示するような展示にしてほしいと願います。

<展覧会場（アートテークギャラリー）を見学しての中村竜治さんの感想>

特別に古い建物ではなく、中途半端に新しい、一般的にホワイトキューブといわれるような空間なので、展示室そのものを展示するような空間としては難しい。白い壁面に干渉するような非常灯やドア等、展示には「余計なもの」と思われがちなものも含めて、あの展示空間にとっては「必要なもの」である。

<中村竜治さんからゼミへの応答>

6つの案が提示される。6つの案は「結界」という、中村さんが今年の第8次椿会展（会期：2022年8月27日～12月18日 資生堂ギャラリー）出品作品として構想している思考の延長上にあるものだった。

<ゼミから中村竜治さんへのお願い>

家村ゼミは、「展覧会の完成形をあらかじめ定めず、作家・学生・教員、さらにはその周辺をも巻きこみ、その過程そのものを運動体として提示し、その試行錯誤の行い全体を展覧会と捉え、展覧会というものの再考を試みていく」ことをテーマに活動するゼミである。なので、1案に絞るのではなく、会期中をフルに使用し、複数案を実現させることにより、言葉を使うことなく、鑑賞者に体感してもらうことで「展示空間そのもの」への意識化をうながすような実験的な試みはできないか？

<中村竜治さんからの応答、作品案再提示>

連続的にしつらえる3つの案が提示される。バリエーションとしての3案ではなく、会期をフルに使用し、連続的に展示空間を変容させていくものとしての3作品。

- a 帯（形の観察）
- b 結界（風景の観察）
- c 対角線（大きさの観察）

2. 展示空間を展示

3 作品のいずれも、101,102,103,104,105 の1階全体を使用します。101室、102室と、展示室に名前を与え、情報を圧縮することで失ってしまった「展示空間そのもの」への意識化を促そうとする作品であり、鑑賞者に個々の目と身体で展示室を捉えなおすきっかけとして、空間に紐が渡されます。

3. 展示に使用する素材は、ふたつだけ

どこにでもある安価な白い紐と市販の固定材だけを使用した展示を予定しています。いわゆる鑑賞する対象としての作品というものは展示されません。

4. 展示入れ替えタイムテーブル



帯 (形の観察) : 9/28 (水) ~ 10/8 (土) 12:00

帯→結界 : 10/8 (土) 12:00 ~ 14:00

結界 (風景の観察) : 10/8 (土) 14:00 ~ 10/15 (土) 12:00

結界→対角線 : 10/15 (土) 12:00 ~ 13:30

対角線 (大きさの観察) : 10/15 (土) 13:30 ~ 10/19 (水) 17:00

5. トークイベント

家村ゼミ展は、毎回、異なる手法により実験的なアート・プロジェクトを実践しているため、一方でその活動を定点観測してくださるような批評家が必要です。その役目をお二人の批評家、中尾拓哉さんと成相 肇さんに託し、毎年トークイベントに登壇していただけてきました。今年は、成相 肇さんが、東京国立近代美術館での展覧会準備作業とかなさるため、残念ながら登壇していただけなくなりました。

そこで、中村竜治さんの元ポスである青木 淳さんにピンチヒッターをお願いいたしました。

6. ドキュメント

家村ゼミでは、毎年、展覧会の紙媒体として、ドキュメントを制作しています。

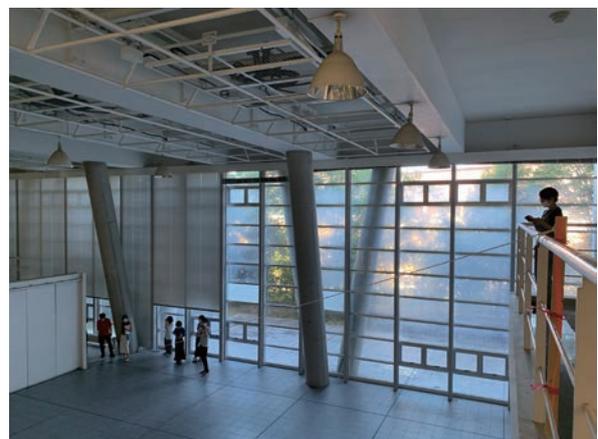
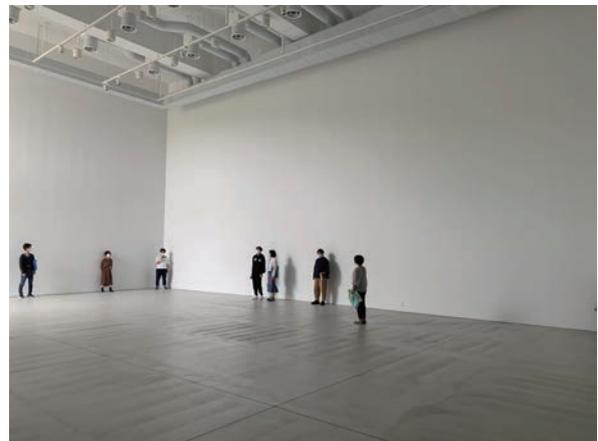
今年も3月末に完成予定です。

今年も COVID-19 の影響を孕みながらの開催となります。また、八王子の鏈水という立地ではありますが、多摩美術大学内だからこそできる展覧会をめざし、学生、講師陣は中村竜治さんとともに、準備をすすめております。

上記の主旨をご理解いただき、多摩美術大学にて、本展をご覧いただければ幸いです。

何卒どうぞよろしく願いいたします。

ゼミの様子



【主催】 多摩美術大学美術学部芸術学科 展覧会設計ゼミ(家村ゼミ)
担当教授：家村珠代
非常勤講師：大石雅之
副手：鍵谷 怜
TA(Teaching Assistant)：石田 彩
ゼミ生：KIM Minjy 竹林香代理 奥谷笑子 川嶋守一 斎藤桜香 野口六花

【お問い合わせ】 公式 HP：<https://www.iemuraseminar.com/>
TEL：042-679-5627 （多摩美術大学美術学部芸術学科研究室）
Email：tenrankai.sekkei@gmail.com （展覧会設計ゼミアドレス）

【SNS】 Twitter：@iemuraseminar
Instagram：@iemuraseminar